

自分の将来を見つめよう

教科・領域 総合的な学習の時間

山口市立小郡小学校 6 学年

キャリア教育の観点

この取組は、親へのインタビューや、実際に校区内の職場見学をすることをおして働くことの大切さや苦勞を知り、自分の将来の夢や目標について考えるきっかけとなる活動です。

〈ねらい〉

- ① 自分の見学したい職場を考えることによって、職業や職場について学ぼうとする関心・意欲をもたせる。
- ② 親へのインタビューによって、身近な人の仕事についての思いや苦勞に触れさせる。
- ③ 職場見学によって、働いている人の思いや苦勞を知るとともに、挨拶や見学の時の態度やマナーなどの社会性を身に付けさせる。
- ④ 職場見学の計画・まとめ・発表をおして、主体的に学ぶ態度を育てるとともに、見学グループでの話し合い活動によりコミュニケーション能力を養う。

【課題対応能力】【キャリアプランニング能力】

将来就きたい仕事

学級ごとに、将来就きたい仕事について話し合い、自分の将来を見つめることへの意識付けを行った。日常生活における多くの情報から、児童は、さまざまな職業名を知っているが、その仕事内容については、詳しく知っている児童とそうでない児童の差は大きく、多くの児童は見かけなどから、ただ漠然と就きたい仕事を挙げているようだった。

そこで、仕事をより身近なものに感じさせるため、校区内や市内にはどんな仕事をしている人がいるのかを考えさせた。その結果、普段あまり感じることはないが、身の回りには様々な仕事があり、多くの職業や職場が存在することに改めて気付いた。その中のいくつかについてみんなで知っている情報や仕事内容について話し合い、さらに、これから調べてみたい職業や学習のめあてを考えることによって、単元全体に対する意欲付けを行った。

将来してみたい仕事

(児童が挙げた仕事)

パテシエ、パン職人、弁護士、アナウンサー、美容師、医師
すし職人、薬剤師、教師、調理師、プロスポーツ選手等

お家の人へのインタビュー (働くってどんなこと?お家の人に聞いて調べてみよう)

6年生までに、低学年での「町探検」、中学年での「社会見学や校外学習による施設の見学」等で、児童は見学場所で働く人々の仕事内容や工夫・苦勞などについて学んできている。しかし、それは将来の自分の夢や目標と直接つながったものとは感じられなかったと思われる。そこで、仕事というものをより身近なものとして感じられるよう、家の人へのインタビューをさせた。それぞれの家庭から、インタビューに対する丁寧な答えが返ってきて、ワークシートからも家族での会話の様子が感じられた。インタビュー内容の発表では、どの児童も一言一言大事そうに話し、聞く児童の顔も真剣そのものであった。

このインタビューによって、親子で仕事について話し合うよい機会(家庭での対話促進)になり、その後の学習に対する興味や関心も高まったと思われる。

自分の将来を見つめよう
No.2 6年 名前()

『働くってどんなこと? お家の人に聞いて調べてみよう』
★仕事で大変なことや苦勞はありませんか?

★仕事をしていたりなときにやりがいや喜びを感じますか?

★自分の職場でどんなことに心がけて仕事をしていますか?

◎おうちに方に関いたことについての感想

職場見学 (3学級 児童数82人)

〈職場見学の計画〉・・・10グループ(10事業所)

まず、各学級で児童が調べてみたい職業の中から校区内で職場見学ができそうな事業所をあげ、教師が事業所と交渉して、時間と引率教員数との都合から、10カ所の事業所を見学することになった。その事業所の中で児童の希望により、見学する事業所を決めた。ここからは、学年全体での学習とし、見学したい事業所別のグループで見学後のまとめと発表までを行うことにした。担任も担当事業所を決め、常に指導内容を共通理解しながら、それぞれのグループの指導を行った。

- ・見学の目的を明確にすること
- ・グループの話し合いに積極的に参加し、見学先での質問内容や注意することなどを決めること
- ・見学先でのマナー(あいさつ、服装、言葉遣い、態度)に気を付けることなどについて各グループで話し合いを進めさせた。

〈職場見学〉・・・10事業所ごとのグループを曜日により3つに分けて実施

時間や引率教員数を考え、事業所との交渉により、10グループを3つに分けて職場見学を行うことにした。

- A班・・・結婚式場、パン屋
- B班・・・内科医院、幼稚園、書店、和菓子店
- C班・・・薬局、老人ホーム、動物病院

プランナーとして一番気を付けていることは?





季節や行事に合わせて作ります。



本によって並べる位置が違いますか？



どんな手術をするのですか？

〈まとめと発表〉

グループごとに見学した事業所の紹介や見学して分かったことなどを、6年生全体の前で発表することにした。発表に向けて、自分が行った事業所について、グループで意見を出し合いながら、聞く人に分かりやすく発表するにはどのようにすればよいかを話し合い、準備を進めた。このように話し合いをもとにして、それを活動へとつなげることで、グループ内での役割分担も話し合いの進め方もスムーズに行われるようになっていった。実際の発表の場では、グループで発表内容の構成を話し合った上で、一人ひとりが分担して発表することができた。



個人の学習のまとめとしては、学習したことに分かったことや自分の考え・感想を付け加えてノートにまとめ直したり、職場見学新聞を作成したりした。どの児童も、働く人の思いや仕事の大変さなど、今まで知らなかったことの多さに驚き、そのような感想を書いていた。また、この学習によって、将来の夢や目標がより鮮明になってきたという児童も多かった。

考察・今後の課題

「自分の将来を見つめよう」というこの学習は、来年度中学校進学を控えた6年生の児童にとって、とても有意義な学習であったと言える。なぜなら、職業について調べたり実際に職場見学したりすることをおして、自分の将来の夢や目標がより具体化する中学校進学を前に、現在の自分の思いを記録するよい機会になったからである。また、大きい単元をグループ学習を中心にして進めることで、コミュニケーション能力を養うとともに、学習の仕方を工夫する機会にもなったと言える。

家庭においても、インタビューしたことによって仕事について家族で話したり、将来の夢や目標について話したりすることができ、対話の促進につながったと思われる。

今後の課題としては、職場見学を受け入れてもらえる事業所の確保が挙げられる。児童の行きたい職場に対応できるよう、職場見学の受け入れが可能な事業所をなるべく多く確保し、さらにそれをリストにしておけば事前の交渉も容易である。また、行事の多い中、見学を伴う学習を行うことは難しいこともあるので、日程や引率教員の人員確保など計画的に進める必要がある。